

発行:余市協会病院

発行日:平成 29 年 5 月 1 日

発行人:吉田 秀明

編集人:広報委員会

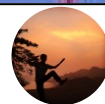
お問い合わせ:0135-23-3126

VOL.155 5月号

はっらっ Plus



This is the Pho



The Vietnamese Sunset

外来看護師の細田です。私は、昨年の4月から地域医療国際支援センターの看護師として、余市病院で働かせて頂いています。

昨年の9月に国際保健医療協力研修で二週間、東京とベトナムに行ってきました。研修は、東京にある国立国際医療研究センターの国際保健医療協力局のプログラムである、国際保健の基礎を学ぶ研修に参加させて頂きました。

東京では1週間、国際保健医療の基礎となる公衆衛生、プライマリヘルスケアやヘルスプロモーション、母子保健、疾病対策などを学び、グループワークを通してベトナムの医療についてディスカッションしました。



日本側ベトナム側でディスカッションしたが、文化や

歴史の違いが医療現場での意見の相違になった。

ベトナムでは、大きな病院から村の施設まで見学し、現地のスタッフに病院や施設内を案内して頂きました。ベトナムの医療の問題は、患者層や人数から院内のスタッフのマンパワー不足がとても大きな問題でした。外来の患者数は1日に1,000人を超えとか。月曜日はさらに倍以上…。入院患者は、基本的に家族の方が患者様を付きっきりで看病していました。ご飯の用意や身の回りの世話など一患者につき一家族が付き添っており、日本では考えられない光景でした。トップの病院では、患者集中によるオーバーロードとなり、1ベッドに患者2～3人がいる状態です。病床2,000床に対して職員数2,000人で対応しています。村の施設では医師2名看護師3名薬剤師1名に対して、診療実績が年間22,151人と医師・看護師などの医療従事者の不足が深刻な状態でした。

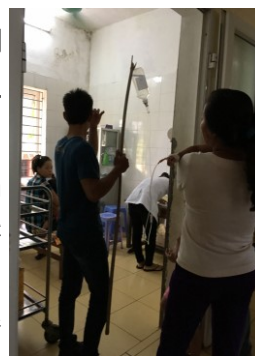


新しい命は医療従事者だけが守っているのではない。村ではボランティア活動で年配の方が妊婦さんたちの管理をしている。

村では、インターネットも使えない環境でした。しかし、インターネットが使えなくても、妊婦さんには母子手帳を配布して管理していたり、ボランティアの方々が手書きで患者様の管理を行っているなど、厳しい環境下でも工夫して健康管理を行っているなど、ベトナムの取り組みに学ぶことが多くありました。

ベトナムは、日本からの支援で点滴ポンプやベッド、MRIやCTなど日本の医療機器を多く使用していました。ベトナムと日本は親日の関係にあります。ベトナム人は日本人の事をとても大切にしています。異国の地では、文化の違いや考え方の違いなど、苦労する事はたくさんありますが、それでも両国が尊敬し、協力し合える関係であることは、今まで関わった方々の汗と努力の結晶であると思います。私は今回、異国での意見の相違や文化の違いから関係性を築くことの難しさを知りました。そして、意見の相違や文化の違いがあるけれど、お互いを尊敬し合うことの大切さ、文化を理解しベトナムで出来ることを優先して考えることの必要性を学びました。2週間の研修で数多くの事を経験する事ができました。この経験を今後の看護活動に生かしていきたいです。そして、余市病院で報告する事で可能性を広めていけたら嬉しいです。

看護師 細田 あゆみ



点滴棒が木の枝！



救急件数 (3月)

外来受診206件 うち入院48件
救急車来院70件 うち入院32件

新入職員研修が行われました



看護部

看護師	高橋	理瑠	看護師	志村	未智
看護師	田中	しおり	看護師	田崎	詩織
看護師	宮野	董	看護師	計良	さやか
看護師	則竹	優依	看護師	沼倉	令奈
看護師	松下	紋人	看護師	藤崎	杏菜
看護師	庄司	帆乃果	看護師	近藤	貴大
看護師	今村	弥生	看護師	武田	真侑

診療技術部

看護師	田村	玲奈	臨床工学技士	三村	里穂
看護師	石崎	玄	臨床工学技士	水野	真実
看護師	畑福	翔太	理学療法士	傳宝	薪平
看護師	美濃	沙希	理学療法士	西永	奨
准看護師	齋藤	陽	作業療法士	大内	一真
看護助手	木村	仁徳			



facebook

いつも”いいね!”ありがとうございます!